

2022年2月18日

各 位

会 社 名 アトラグループ株式会社
代 表 者 名 代表取締役会長兼社長CEO 久世 博之
(コード番号：6029 東証第一部)
問 合 せ 先 取締役CFO 田中 雅樹
(TEL. 06-6533-7622)

たな卸資産評価損などの計上及び通期連結業績予想と

実績との差異並びに剰余金の配当（無配）に関するお知らせ

当社は、2021年12月期決算において、たな卸資産評価損などを計上する見込みとなり、2021年11月11日に公表いたしました2021年12月期の通期連結業績予想と本日公表の実績に差異が生じました。また、2021年12月31日を基準日とする剰余金の配当を無配とすることといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. たな卸資産評価損などの計上について

当社は、2021年12月期決算において、以下のとおり、たな卸資産評価損などを計上いたしました。

(連結)

たな卸資産評価損（売上原価）	48,062千円
固定資産の減損損失（特別損失）	51,950千円
投資有価証券評価損（特別損失）	95,985千円

(個別)

投資有価証券評価損（特別損失）	95,985千円
-----------------	----------

当社グループは、「世界中の人を健康にしたい。」という企業理念の下、ほねつぎチェーンの加盟院の拡大、機材、消耗品販売の拡大、アトラ請求サービスの会員の拡大、HONEY-STYLEの利用院の拡大等に注力し

ております。また、鍼灸接骨院支援事業を軸に、ヘルスケア全体に事業範囲を広げる方針であり、ヘルステック企業の株式会社One Third Residenceを子会社化しました。さらに、これまで鍼灸接骨院支援事業の展開をとおして蓄積したリアル店舗の運営ノウハウを活かし、企業規模、売上規模の拡大を図るため、株式会社ビーユーを子会社化しました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響などにより、対面での商談、セミナー開催が滞り、機材、消耗品販売などが想定どおりに進みませんでした。その結果、在庫が過剰となり、たな卸資産評価損48,062千円を計上いたしました。なお、当該たな卸資産は、販売価格が下落しているわけではなく、2022年12月期以降も引き続きこれまでと同等の価格で販売する予定です。

また、当社が提供しているサービスの一部について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響などで、業績が想定を下回り、将来の回収可能性を保守的に検討した結果、固定資産の減損損失51,950千円を計上いたしました。

さらに、当社が保有する投資有価証券を「金融商品に関する会計基準」に基づき評価した結果、連結、個別ともに減損処理による投資有価証券評価損95,985千円を特別損失に計上いたしました。

2. 2021年12月期通期連結業績予想と実績との差異について

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,265	31	30	1	0.10
実績(B)	3,158	△223	△224	△351	△36.76
増減額(B-A)	△106	△254	△254	△352	
増減率(%)	△3.3	—	—	—	
(ご参考) 2020年12月期実績	2,426	△410	△395	△440	△49.87

修正の理由

当社グループは、「世界中の人を健康にしたい。」という企業理念の下、ほねつぎチェーンの加盟院の拡大、機材、消耗品販売の拡大、アトラ請求サービスの会員の拡大、HONEY-STYLEの利用院の拡大等に注力しております。また、鍼灸接骨院支援事業を軸に、ヘルスケア全体に事業範囲を広げる方針であり、ヘルステック企業の株式会社One Third Residenceを子会社化しました。さらに、これまで鍼灸接骨院支援事業の展開をとおして蓄積したリアル店舗の運営ノウハウを活かし、企業規模の拡大を図るため、株式会社ビーユーを子会社化しました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響などにより、対面での商談、セミナー開催が滞り、ほねつぎチェーンの加盟院の拡大が想定どおりに進まず、売上高、営業利益が想定を下回りました。また、ほねつぎデイサービスの直営において、新型コロナウイルス感染症の感染を懸念し利用を控える利用者が想定を上回り、ほねつぎデイサービスの売上高、営業利益が想定を下回りました。フランチャイズ加盟店の開発においては、ほねつぎデイサービス直営店の見学、加盟に向けた商談が想定どおりに進まず、売上高、営業利益が想定を下回りました。HONEY-STYLEは、予約機能だけでなく、ポイントシステムを活用した患者への物販に取り組むことができるシステムとして拡販に取り組みましたが、予約機能を提供する競合他社とのシェア争いの激化に伴う影響等から、売上高、営業利益が想定を下回りました。Fitness Mirrorについては、本格的に販売及びサービス提供を開始する計画でしたが、その準備に想定以上の時間を要したため、売上高、営業利益が想定を下回りました。

この結果、鍼灸接骨院支援事業の売上高は、計画を432百万円下回りました。営業利益は、売上高が計画

を下回ったこと、たな卸資産評価損を43百万円計上したことなどから、計画を286百万円下回りました。

2021年12月に子会社化した株式会社ビーユーによる玩具販売事業で325百万円の売上高と32百万円の営業利益を計画外として計上しましたが、当連結会計年度の売上高は、計画を106百万円下回り、営業利益は計画を254百万円下回りました。

さらに、たな卸資産評価損48,062千円を計上したことなどから、売上高、営業利益、経常利益は、計画を下回りました。親会社株主に帰属する当期純利益は、営業利益、経常利益が計画を下回ったことや固定資産の減損損失51,950千円、投資有価証券評価損95,985千円を計上したことなどから、計画を下回ることとなりました。

3. 剰余金の配当について

当社は、本日開催の取締役会において、2021年12月31日を基準日とする剰余金の配当を見送ることを決議いたしました。

配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (2021年2月9日公表)	前期実績 (2020年12月期)
基準日	2021年12月31日	同左	2020年12月31日
1株当たり配当金	0円00銭	3円50銭	3円50銭
配当金総額	—	—	31百万円
効力発生日	—	—	2021年3月26日
配当原資	—	—	利益剰余金

理由

当社は、株主に対する利益還元を重要な経営課題の一つと位置づけており、収益力の強化や事業基盤の整備を実施しつつ、内部留保の充実状況及び企業を取り巻く事業環境を勘案したうえで、株主に対しての安定的かつ継続的な利益還元を実施することを基本方針としております。

しかしながら、上記2のとおり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響などから、2021年12月期の業績が計画を下回りました。このような現状を勘案し、誠に遺憾ではありますが、2021年12月期の期末配当につきましては、無配とさせていただくことといたしました。なお、2021年12月31日を基準日とする株主優待は予定どおり実施いたします。

2022年12月期連結業績は、本日予想を発表しましたが、鍼灸接骨院支援事業はほねつぎチェーンの加盟院の拡大等を図り、また、株式会社ビーユーの業績が年間をとおして反映することもあり、増収で営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益も改善する見通しであります。

株主の皆様におかれましては、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

以上